

令和5年度 静岡県緑化推進有識者会議における委員意見への対応

項目	委員意見	対 応
<p>全般的なこと</p>	<p>各取り組みでは、実施の段階で委託している団体がいるはずである。主体となってきているボランティア団体はパートナーであるため、事業個票には名前を記入すべきだと考える。（水谷委員）</p>	<p>（環境ふれあい課） 県が直轄で行っている事業は少なく、どの事業に関しても協働相手がいるため、様式を修正し、委託先や協力団体など事業に協力してくれている団体も記載するようにします。</p>
	<p>様々な取り組みの成果をしっかりと表に出して欲しい。例えば、成果を出している事例の一つに、万田発酵株式会社を整備・運営するHAKKOパーク（広島県）がある。このように、民間企業が協力をして緑化に取り組んでいる事例は全国にも数多くある。もし静岡県においても自慢できる例があればアピールすべきである。企業と連携しながら、企業の個性が出る庭づくりを实践するのも裾野を広げることにつながるのではないかと考える。（飯塚委員）</p>	<p>（環境ふれあい課） 各取組について、静岡県LINE公式アカウント、ふじのくにメディアチャンネル（YouTube）、静岡県庁わかものがかり（X:旧Twitter）、いいねがあるある静岡県。（Facebook）、ふじっぴー【公式】（Instagram）等を活用して積極的にPRしていきます。</p>
	<p>放置竹林に対する取組は、県の守備範囲なのか。もし取り組んでいるのであれば、県民に伝わる形で活動を周知すべきだと考える。（渡邊委員）</p>	<p>（環境ふれあい課） 放置竹林対策では初期整備の段階が特に費用がかかるため、県では、森林（もり）づくり県民税を活用した森の力再生事業等により、整備を支援しています。このような取組を積極的にPRしていきます。</p>
<p>緑化資材の提供</p>	<p>緑化ボランティア団体に向けて種を配布しているとあるが、近年は酷暑により、従来は秋まで楽しめたマリーゴールドなどの花が夏を越すことができなくなっている。このため、暑さに強い種への変更を検討すべきだと考える。（矢澤委員）</p>	<p>（静岡県グリーンバンク） 無償配布する数量が多く、対応できる県内種苗会社は少ないですが、毎回事前に配布可能な品種を確認しているため、その際に暑さに対する強さの確認もしていきます。</p>
	<p>ボランティア団体のリクエストにより配布する種子を決めているのであれば、温暖化による花の変化をガイドランスなどで周知すべきである。（水谷委員）</p>	<p>（静岡県グリーンバンク） 無償配布は秋と春年2回実施しており、関係するボランティア団体は4,500団体を超えるため、配布種子のリクエスト（希望）は特に受け付けていません。 温暖化による花の変化については、播種時期の気温等、注意する点を種子配布時のチラシに記載して周知するようにします。</p>
<p>花壇や芝生の維持管理</p>	<p>花壇や芝生の維持について、従来は先生が空いている時間に水やりをしてくれていたが、学校の働き方改革により植物の世話をする余裕がなくなってしまった。このような問題を踏まえ、学校とボランティア団体間のマッチングにも力を入れて欲しい。また、多様な生物に触れることができるイングリッシュガーデンのような、子どもにとって理科的学びにつながるような学校花壇を導入すべきだと考える。（渡邊委員）</p>	<p>（静岡県グリーンバンク） ボランティア団体と学校が連携して行う学校花壇の維持管理活動を推進するため、令和5年度から緑化グループ支援事業補助金の支援内容を拡充しています。</p>
<p>eラーニング</p>	<p>eラーニングは、リアルタイム形式またはオンデマンド形式のどちらをとっているのか。取組自体は素晴らしいものだと思うので、さらにコンテンツを充実させて欲しい。また、里山学習についてもeラーニングを導入できるのではないかと。まずはアーカイブ化から検討してほしい。（渡邊委員）</p>	<p>（静岡県グリーンバンク） グリーンバンクが行うeラーニングは、オンデマンド形式で実施しています。今後も両方式の特徴を踏まえ充実させていきます。 （環境ふれあい課）（自然ふれあい班） 里地・里山の学習ツールである「里地・里山 生物多様性保全ガイドブック」を作成しており、今後県ホームページに掲載していきます。</p>
<p>担い手不足</p>	<p>現在の深刻な問題として、担い手の不足が挙げられる。1、2年後ではなく数十年後まで活動を存続させるには、理念を継承する基盤作りが必要になる。また、管理や維持には関わっている人の手があることまで子どもたちに伝えるべきである。（飯塚委員）</p>	<p>（環境ふれあい課） 県では、市町が森林環境教育を実施する際に必要となる指導者を養成する「森林環境教育指導者養成講座」、森づくり団体の課題解決や資質向上、持続的な活動を支援する「森づくりミーティング」等、幅広く人材育成、普及活動を行っています。 また、管理や維持には関わっている人の手があることを、小学校に林業で働いているプロ等を派遣する「森林ESD出前事業」等を通じて子どもたちに伝えていきます。 （農地保全課） 県では、棚田地域の活性化や棚田が有する多面的機能に対する県民の理解と協力を得るため、子供と一緒に田植えや稲刈り体験が可能なオーナー制の導入や、子供達が農業を通じて環境や生命の大切さ等を学ぶ官民連携したスクール活動の促進など、長期的な応援者の育成が重要と考えております。また、県民だよりやしずおか棚田・里地くらぶのホームページ等を通じて幅広く取組を知っていただき、参加者の増加を図っていきます。 なお、棚田の維持・管理に対する支援については、昨年度、地元の代表や国、県を構成員に含めた「しずおか棚田ネットワーク」を設立し、課題分析をはじめ、対応策の検討・計画推進等を行っていく体制強化を行っています。</p>

項目	委員意見	対 応
「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」	「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」とは具体的に何をするのか。また、参加人数はどのくらいいるのか。達成率が89%とのことだが、その目標値で実際に棚田は維持・管理ができるのか、また次に繋げられるのかについて再検討すべきだと考える。（西森委員）	（農地保全課） 「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」とは、農産物や伝統文化などの特徴的な地域資源を次世代に継承する自立した活動を行う地域を支援する取組です。取組内容としては、農村の魅力を紹介するホームページや広報誌、フォトコンテストなどによる広報をはじめ、「しずおか棚田・里地くらぶ」による棚田の支援、「ふじのくに美農里プロジェクト」による農地維持活動の支援や「一社一村しずおか運動」の取組全体を総じて「ふじのくに美しく品格のある邑づくり」としていきます。 これらの参画者の目標をR7時点で87,600人としており、R4末実績で78,211人となっています。（89%） 棚田の維持・管理に対する支援については、昨年度、地元の代表や国、県を構成員に含めた「しずおか棚田ネットワーク」を設立し、課題分析をはじめ、対応策の検討・計画推進等を行っていく体制強化を行っています。
ふじのくに色彩・デザイン指針	全体的にざっくりとしているため、具体例を示して欲しい。参考資料である写真に関しても、イメージがしやすいよう具体的なものに差し替えるべきだと考える。（西森委員）	（景観まちづくり課） 取組個票の記載内容を、より具体的に修正します。
安全で美しいいえなみ整備	達成率が27.8%となっているが、今ある生け垣の風景の維持でも大変なのが現状である。そのような現在の街並みも含めて補助を行うことで、達成率をあげることができるのではないかと。（西森委員）	（住まいづくり課） 本事業の達成率は制度創設市町数であるため、制度未創設の市町に対して働きかけを行うとともに、美しいいえなみ整備に効果的な制度となるよう、引き続き検討していきます。
芝生地の普及支援	芝生地の普及には、芝生が二酸化炭素の削減にどれほど貢献しているかという芝生自体の効果について主張することが大切である。また、単一の芝生地だけではなく、昭和記念公園のように複数の種で構成された芝生地の導入も検討すべきである。英ケンブリッジ大学での研究結果では、複数種で構成された芝生地において生態系の多様化が見られたという結果が報告されている。このような複数種による芝生の効果を理解した上で芝生の促進に取り組むべきだと考える。（飯塚委員）	（環境ふれあい課） 芝生の普及にあたっては、二酸化炭素の吸収や生物多様性の保全など、様々な効果を示しながら推進していきます。
芝生の維持管理	ロボット芝刈機に関して、PRとして見学会を開催しているとあるが、その後の過程はレンタルによる貸し出しか、または個人による買取か、どのようになっているのか。ロボット芝刈機はレンタルによる貸し出しが好ましいと考える。また、近年ゴルフ場によるエアレーション器具の貸し出しが減少してきているため、エアレーション器具も貸し出すことで、人々のニーズに応えることができると考える。（矢澤委員）	（環境ふれあい課） ロボット芝刈機については機器購入を想定しており、購入資金の一部を補助する仕組みをグリーンバンク事業に追加しました。 現在、芝草研究所では、芝刈機、肥料散布器等の器具貸出しを行っており、エアレーション器具も貸出しできるようにします。
アカマツ林再生活動	アカマツ林の再生活動とは、現存するアカマツの再生であるのか、それとも人工林なのか。外から苗をもってきて植えると人工林になってしまうため、もともとあるマツの実生を育てることが、本当の意味での再生につながるかと考える。（矢澤委員）	（環境ふれあい課） 天然下種による実生苗の発生が部分的に認められることから、これら実生苗の活用により、アカマツ林の再生を図ることを基本としています。
さくらの維持管理	5、10年後には維持が難しくなっている事例が多く、非常に難しいプロジェクトだと考えている。このような事業はニュータウンでも失敗例が多い。財力や維持費を誰がもつのかについて検討してほしい。（飯塚委員）	（環境ふれあい課） 維持管理にかかる経費は基本的に所有者が負担すべきものであり、静岡県さくらの会では引き続き、専門家の無償派遣等により維持管理を支援していきます。
森づくり県民大作戦	静岡県はエリアごとに特徴があるが、地域によって計画や戦略のビジョンはあるのか。また、メインとなっているのは市町と団体のどちらなのか。（西森委員）	（環境ふれあい課） 県及び市町単位で森林計画を策定しており、大きくエリア分けして維持管理方法を決定しています。 森づくり県民大作戦は、里山を中心に森づくり団体がメインとなって森づくり活動を行っています。
緑化コーディネーターの育成・活用	講座は新しい技術を常に発信することに力を入れるべきである。技術は日々更新されるため、アップデートした情報を講座で伝えることで、受講者側のモチベーションにつながるのではないかと考える。（矢澤委員）	（静岡県グリーンバンク） 各種講座では、受講者（ボランティアで活動している方々）に寄り添い、時代に合った方法を取り入れている講師陣を招き、指導をお願いしています。
	SNS発信について、ボランティア団体に向けてSNSの研修を行う旨の回答があったが、情報発信に特化したチームを組むべきだと考える。ボランティア団体の方はあくまで花壇の整備が優先順位が一番になるため、情報発信を優先できる、カメラや映像に長けた専門学校等とコラボレーションし、プロジェクト化すれば良いのではないかと。（水谷委員）	（静岡県グリーンバンク） ボランティア活動においてSNSの使い方についても知りたいとの声があったため、研修では、スマートフォン等の利活用方法についても教示しています。活動等の情報発信等の方法については今後検討していきます。